

新しい年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、抱負も新たに21世紀の始まりである2001年のよき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

20世紀最後の年となった昨年はIT革命元年とされ、インターネットが従来の情報通信システムを大きく変貌させ、B to B、B to Cの場面で新しい産業と経済システムの扉が開かれ始めました。経済活動はますますボーダーレスとなり、変化とスピードを増しています。一方、大量生産・大量消費・途上国の経済発展の結果としてのエネルギーと廃棄物が環境に及ぼす影響がますます深刻となり、温暖化・環境汚染の克服が国際的にも国内的にも重要な課題になってきました。米国は好調な経済を維持しましたが、わが国の経済は回復基調は見られるもののまだら模様に移りました。経済構造の変化と競争の激化に対応して、国内外・業種を問わず企業間の合従連衡が従来になく急速に進みました。このように経済の質的变化と情報技術のインパクト、さらには地球環境問題と企業経営を取り巻く環境と経済構造の巨大な変化が起こりつつあります。

このような企業環境の中で力強い成長を目指していくために当社は21世紀を迎えるにあたり、中期ビジョンならびに中期計画として「S21プラン」を発表しました。パワー半導体およびパワーエレクトロニクス製品群、低圧開閉機器群、水処理を主体としたシステム事業、自動販売機などの従来からの強い事業をさらに強化伸張するとともに、情報・環境・サービス・コンポーネント分野を強化して、パラダイム変化に対応した企業体質の強化を図っていきます。1999年のカンパ

ニー制度の導入にあたって事業担当部門で行うべき研究開発についてその権限と責任範囲を拡大し、研究開発資源の配分の比重を事業担当部門にシフトすることで、より機動力を高め早期に事業化する開発体制へ強化を図りました。この体制のもとで研究開発投資の効率化を追求し、攻めの研究開発を目指しました。すなわち研究開発成果の早期事業化、当社の強い分野への研究開発投資の集中、情報ソリューション分野への取り組みの推進です。本号では、2000年に成果をあげた技術開発・製品開発の一端をご紹介させていただいております。

情報システム分野では、地方自治体・公共団体・民間企業向けにITを活用したシステムを開発しました。行政情報ソリューションとしては電子政府の実現に向けた地方情報化を狙い、地域インターネット導入に対応し行政サービスの向上を目的としたシステム構築を行いました。道路分野ではETC（自動料金収受システム）設備を開発し、ITS（高度道路交通システム）や交通管理システムの最適化の開発を行っています。

産業向けにはサプライチェーンマネジメントの中核となる物流業務について、物流の合理化へのソリューションを提供するサードパーティーロジスティクスの標準化体系を開発しています。環境分野では、水環境、エネルギーソリューション、廃棄物処理・リサイクルに着目した開発と事業化に注力しました。水処理分野では上水道の水質汚染対策、下水道では生物処理阻害対策などに着目し、各種モニタリングセンサとシステムを開発しました。また、オゾン処理や紫外線処理による高度廃水処理システムを開発しました。生ごみや



畜産廃棄物からのバイオガスを利用した燃料電池発電システムなどを開発し、ゼロエミッションシステムへの取組みを推進しました。衛星通信とGPS（位置測距システム）を用いた廃棄物処理の適正処理情報システムのサービスを開始しました。

サービス事業に取り組む体制を整備するとともに、そのインフラストラクチャーとしてコールセンターを設立しました。サービス情報を一元的に管理し、データを戦略的に活用するための基幹システムを構築し運用を始めました。また、保全技術を体系化し環境センサなどを含んだサービスメニューを提供するシステムを完成しました。

システム機器分野ではグローバル市場に展開するためのシステム化、オープン化、国際規格対応の商品開発を進めました。プログラマブルコントローラではPCIバス対応、オープンネットワークへのI/Oターミナル、器具では国際規格対応、インバータでは400V対応などの製品を開発しました。

情報機器関連コンポーネントでは厳しい事業環境が続いていますが、ハードディスク装置の高密度化、高速化、低騒音化が進みそれに対応して3.5インチ20Gバイト/枚の磁気記録媒体を発売しました。開発段階では40Gバイト/枚の記録密度の見通しを得ています。プリンタ・複写機・ファクシミリとそれらの機能を複合した画像処理に用いる感光体では高画質・高速・超寿命の開発、オゾン発生のない正帯電有機感光体の高速・高感度化技術を開発しました。

電子デバイスではパワーマネジメント技術に着目し、パワーとインテリジェント機能をアナログCMOS技

術で実現し、小型化・軽量化・低消費電力化に応えた各種携帯機器用のACアダプタ、DC-DCコンバータなどの電源ICや薄膜インダクタを開発しました。パワーモジュール・ディスクリートデバイスでは複合機能、複合構成やインテリジェント機能の取込みや小型化の開発を行い、きめ細かくお客様のニーズにお応えする製品と技術開発を行いました。高い視認性で注目されている有機エレクトロルミネッセンスディスプレイについては、3.2インチサイズのフルカラーパネルの開発を行いました。

流通関連分野では、自動販売機につき製品開発アセスメントを推進し、省エネルギー・低騒音化・軽量化、冷却媒体の切替えなどにより環境負荷に配慮した開発を行いました。偽貨対策、ポイントカード対応、インターネット対応など新たな社会動向や市場対応を進めました。インターネット対応はオペレーションの合理化のみならず、販売情報の管理や予測など新たなマーケティングツールとして期待されています。コンビニエンスストアなどの店舗冷却機器の省エネルギー化を実現し、さらに氷蓄熱を用いた店舗冷熱システムのトータル省エネルギーシステムのフィールドテストを行っています。

富士電機は独創的な技術と心のこもったサービスでお客様のご期待に応え、最大の満足を提供できるよう今後とも技術の研鑽に励んでまいります。皆様のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

沢 邦彦

取締役社長